

第 17 回日本看護診断学会学術大会

用語検討委員会主催：交流セッションの実施報告（概要）

I. 開催日時：2011 年 6 月 20 日（月） 14:40～16:10

参加人数：約 130 名

テーマ：「語ろう！看護診断用語にまつわる疑問や困惑」

【内容】

1. 話題提供：
  - 1) 看護師が選ぶ「イメージがつかない看護診断名」－全国調査から－
  - 2) 看護診断にまつわる誤解
  - 3) 我々の専門領域からみると、このような表現になると思いますが…  
－診断用語 邦訳に寄せられたコメントから－
2. グループ&全体討議（意見交換）：看護診断用語！私はここに困惑しています。
3. まとめ

III. 参加者の方からのご意見（会場アンケートより）

1) 交流セッションへの参加理由について

参加理由として、最も多かったのは「看護診断用語で日々困っている現状がある」で、その他には以下の回答があった。

- ① 看護診断用語に関する具体的な疑問：成長発達遅延や発達遅延リスク状況の診断の使い方、安楽障害の 4 側面がないと立案できないか、非効果的自己健康管理と知識不足が混乱する、乳児行動統合障害の指標の「摂食行動にたえられない」とは具体的にどのような状況を示すのか、促進準備状態が分からないなど。その他、診断ラベルの訳語や表現に対する疑問もあった。
- ② 困っている具体的な内容：定義が難しい、わかりにくいという記述が多かった。また、日本語訳が理解しにくい、定義の解釈に個人差があり、共通用語としての利便性が低いという意見もあった。
- ③ その他：記録委員として活動するため、スタッフへの浸透、学生の教育の参考、電子カルテへの対応に関する事などであった。

2) 疑問や困惑の解決について

本セッションへの参加が疑問や困惑の解決に役立ったどうかという点については、ほぼ半数の方が「どちらともいえない」との回答が一番多く、「できなかった」との回答は約 2 割であった。

### 3) 企画・運営について

この度の企画・運営に対する評価として、「よかった」「まあまあよかった」という回答が合わせて約7割であった。

具体的な内容では、「いろいろな意見を聞くことができた」「同じ状況の施設があることがわかった」「悩みが共有できた」などが多かった。その他にも、「参加者ひとり1人の意見が反映される方法があると知り勇気がでた」「グループディスカッションよりフロアからの意見交換でも良かったのではないか」「もう少し時間を充分にとってディスカッションできるとよいという意見」もあった。

### 4) 用語検討委員会に期待すること（同様の内容はまとめた）

- ・全国的によくある質問を Q&A でホームページにのせていただけると参考になる
- ・ガイドラインを作成していただきたい、いろいろな意見があって混乱している
- ・理解しやすい言葉に訳してもらいたい、多くの方が参加して翻訳して欲しい
- ・検討の必要なテーマや研究テーマを公開し、委員に研究員を公募してはどうか
- ・このような診断名をつけることに対する患者の思いの調査があれば紹介してほしい
- ・用語解説ポケット版が欲しい
- ・次年度以降もこうした日頃の悩み相談の時間をとってもらえると有り難い
- ・NANDA-NOC-NIC 再販時期について（電子カルテのアップ時期とずれる）

以上

2011年10月1日

看護診断用語検討委員会（2010-2012年度）

委員長：本田育美

委員：柏木公一，上鶴重美，小平京子，  
佐々木真紀子，曾田陽子（五十音順）